

城里町の文化財さんぽ(五六)

町指定文化財(絵画)

けんほんちやくしよく

絹本著色

りようかいまんだらず

両界曼茶羅図

指定年月日/平成一六年五月七日

所在地/城里町那珂西

管理・所有者/玉幢院

町指定文化財「絹本著色両界曼茶羅図」は、先月紹介した両界曼茶羅図とほぼ同様のものです。大きさは、縦二二センチメートル・横一〇九センチメートル程で、製作年代は南北朝時代(一四世紀)前期頃とされています。画面の界線には切金(金箔の線)が用いられており、古色の中に華やかさが感じられます。

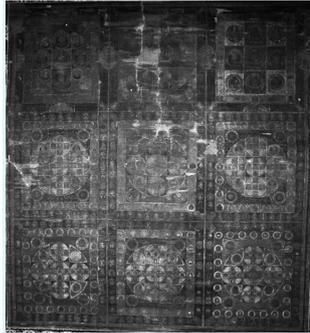
両界曼茶羅図は、真言密教の宗教観を下図のように表しています。「胎蔵界曼茶羅」は、中台八葉院の周囲に一院を配置し、全体で四四四体の仏像を描きます。「金剛界曼茶羅」は、九会曼茶羅ともいわれるように画面を九区に分け、上部中央の一印会に大日如来を、他の八区に一四六〇体の仏像を描きます。

問合せ 教育委員会事務局

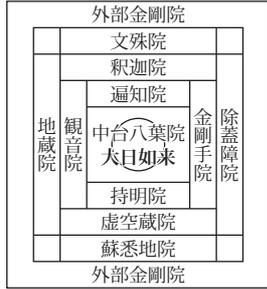
029-288-3135



▲金剛界曼茶羅図の組織図



▲金剛界曼茶羅図



▲胎蔵界曼茶羅図の組織図



▲胎蔵界曼茶羅図

俳句

万歩計銀杏落葉の歴史館 綿引 英子
海風のばたばた吹いた十二月 中野 千賀子
クリスマスイヴケーキと紅茶四人分 瀬谷 博子
鮫鱈や夫喜々として鍋奉行 今瀬 多代美
川荒れて落鮎たちを押し流す 飯田 勇一
粉砂糖かけて聖菓のでき上がり 竹内 幸子

筆太は亡き夫の手なれすがれ虫 中田 まちゑ
霧ざめり白山連峰冬立ち 田口 勝元
やはらかき夕陽をまとひ山眠る 寺門 孝子
霜下りて黄の衣脱ぐ銀杏かな 羽石 雅春

川柳

災害の無き年願い初詣 富田 多蔵
歳が増えていくほど減っていく年賀状 車田 綾子
川柳も作り過ぎてもアレだしな 飯村 孝一
令和世も平和であれと初詣 川原 清

文芸しろさと

短歌

神奈川に住みるし孫が尋ね 所 美恵子
きて曾孫二人の成長みたり 親友の声近況楽しい広報しろさと
短歌読みて「まだ生きてるね」と 山形 式妙
地区外のわれ身に余る光栄と 感謝で加はるゲートボールに 杉山 みちこ
霜月の朝目覚めるに真白なる霧に包まれただ真白中 大森 久子
畑土にキヌサヤ播種し来年の稔り待ちたり生を信じて 佐川 あや

老い吾に未だ為せる事ある幸を 思ひつつ落葉掃きて暮れたり 渡辺 千紗子
幼き日母の帰りを待つ我に 童謡を教えし姉も逝きたり 島 愛子
退院を祝いくるるか沈む陽はたなびく雲を茜に染めて 信田 育子
首里城の崩れ落つさまに心痛む炎の骨組眼裏に残りて 厨辺に秋冬やさしい豊かなり 呉れたる友らの丹精の品 萩谷 登喜子
令和への即位パレード華やかに平和願いて人びとの波 菌部 光子

八十寿にして短歌が浮かぶ我れす 古い生きてくことを楽しみながら 富田 欽子
「逆上がり」出来て喜ぶ虚弱児の脚ぴんぴんと青空を射る 矢次 洋平

